

第6期 決算速報

(平成11年7月1日～平成12年6月30日)



平成12年7月26日

株式会社 旅籠屋本店

会社名(定款上の商号)	株式会社 旅籠屋本店
英文名(英文商号)	Hatagoya Honten Co.,Ltd
代表者の役職氏名	代表取締役社長 甲斐 真
本店の所在の場所	東京都台東区寿3丁目3番4号
電話番号	03-3847-8858
連絡者	代表取締役社長 甲斐 真

当期の業績の概況

(1) 損益の状況

損益計算書 (単位: 千円)

	第1四半期 H11.7.1～ H11.9.30	第2四半期 H11.10.1～ H11.12.31	第3四半期 H12.1.1～ H12.3.31	第4四半期 H12.4.1～ H12.6.30	当期累計 H11.7.1～ H12.6.30	前年同期累計 H10.7.1～ H11.6.30
売上高	14,406	9,057	8,732	11,979	44,174	37,850
営業費用	13,797	18,388	17,488	26,208	75,883	56,377
営業損益	609	9,332	8,756	14,228	31,708	18,527
営業外収益	4	283	80	7,760	8,128	254
営業外費用	299	138	8	3,794	4,222	-
経常損益	314	9,186	8,666	10,262	27,802	18,272
特別利益	-	-	-	-	-	-
特別損失	-	-	-	158	158	-
法人税等	-	-	-	702	702	612
当期損益	314	9,186	8,666	11,123	28,663	18,884
前期繰越損益	45,982	45,982	45,982	45,982	45,982	27,097
当期末処分損益	45,669	55,169	54,649	74,645	74,645	45,982

期中平均 発行済株式総数	3,000 株	3,215 株	4,980 株	4,980 株	4,036 株	3,000 株
1株当たり当期損益	104 円	2,857 円	1,740 円	2,233 円	7,101 円	6,294 円

潜在株式調整後の1株あたりの当期損益は、最終損益がマイナスとなるため記載を省略しております。

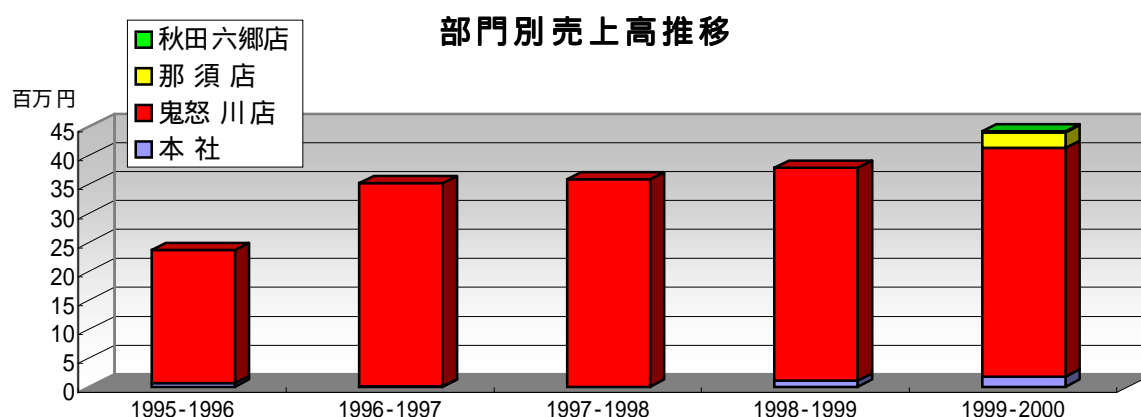
売上高 昨年11月作成の「事業計画書」では38,600千円、本年3月には42,000千円に上方修正を行いましたが、その後も「鬼怒川店」の好調が続き（過去最高の売上高を達成）、短期間ながら「那須店」「秋田六郷店」の売上也加わったため、今期の売上高は前期比17%近く増加し、44,174千円となりました。

営業費用 「那須店」「秋田六郷店」の出店費用のため、前期に比べ大幅増加となりました。

当期損益 営業費用の大幅増加のため、前期比10,000千円近くの減少となっておりますが、事業計画書（昨年11月）記載の33,534千円、第3四半期報告書（本年3月）予想の30,000千円からは圧縮されております。

なお、第4四半期の営業外収益の大部分は、消費税還付税額でございます。

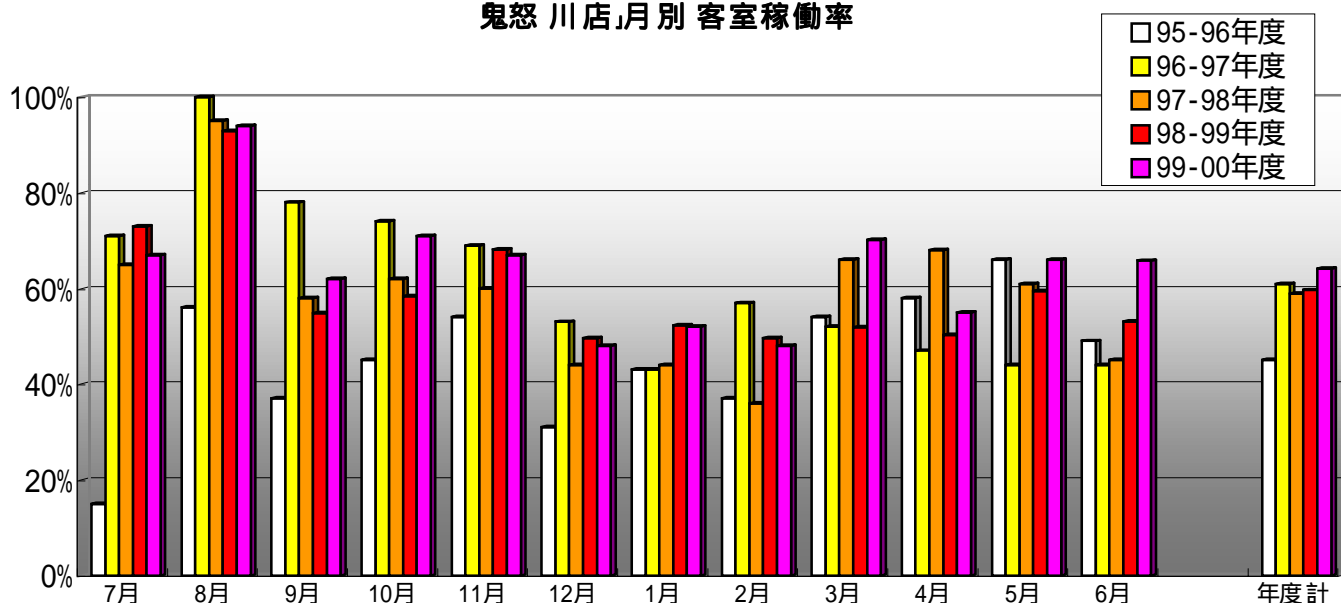
(2) 営業損益の部門別内訳



「鬼怒川店」の状況 (単位：千円)

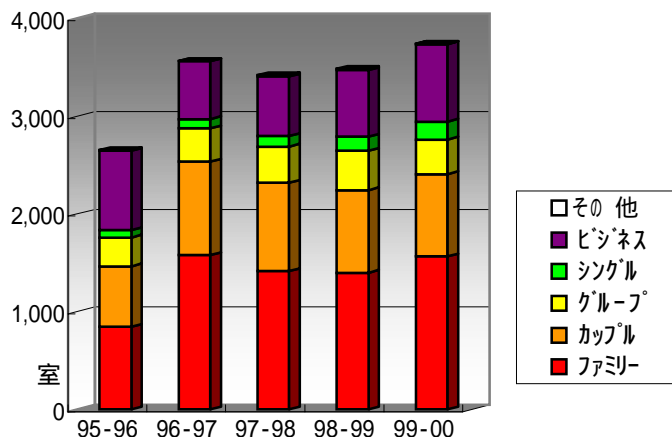
	第1四半期 H11.7.1～ H11.9.30	第2四半期 H11.10.1～ H11.12.31	第3四半期 H12.1.1～ H12.3.31	第4四半期 H12.4.1～ H12.6.30	当期累計 H11.7.1～ H12.6.30	前年同期累計 H10.7.1～ H11.6.30
客室稼働率	74.5%	62.0%	56.3%	62.3%	63.9%	59.7%
客室単価	12,310円	8,920円	9,304円	8,811円	9,973円	9,912円
室料売上	13,492	8,143	7,712	7,991	37,338	34,562
室料外売上	683	457	498	569	2,208	2,275
売上合計	14,175	8,600	8,210	8,560	39,546	36,837
(償却前)費用合計	4,958	7,529	5,128	7,692	25,307	23,039
(償却前)営業利益	9,216	1,071	3,082	868	14,239	13,798

鬼怒川店、月別客室稼働率

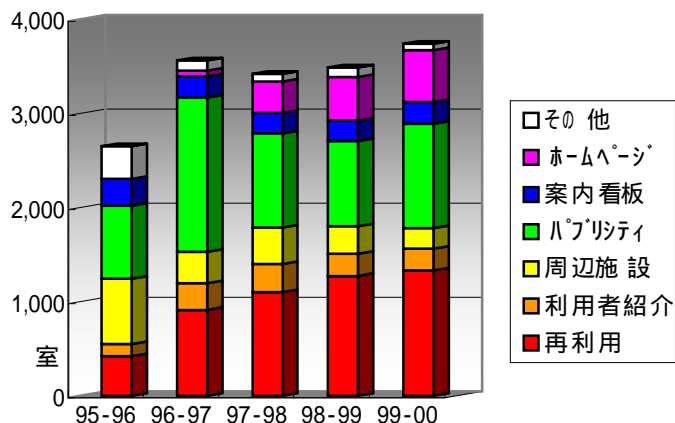


客室稼働率 オフシーズンもビジネス客の利用が増え、通期で63.9%と過去最高の稼働となりました。
 利用者構成 ファミリー42%(微増)、カップル23%(微減)、ビジネス21%(微増)の順となっております。
 認知経路 再利用36%(微減)、パブリシティ30%(微増)、ホームページ15%(微増)となっております。

鬼怒川店利用者構成 年度別推移



鬼怒川店認知経路 年度別推移

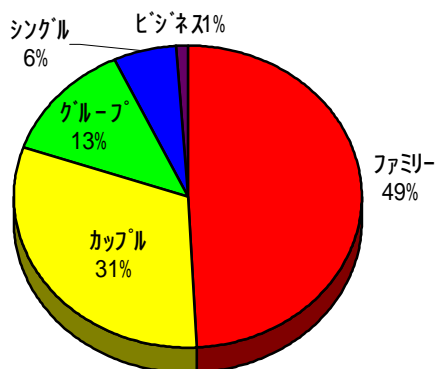


「那須店」の状況 (単位：千円) ……4月25日オープン

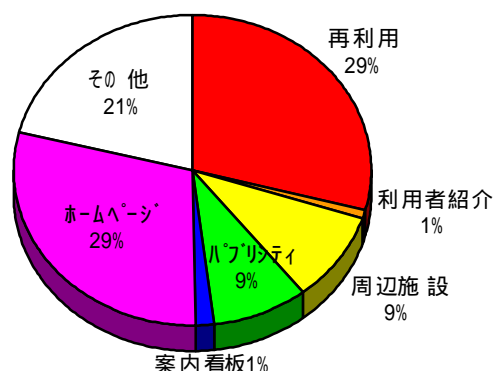
	第1四半期 H11.7.1～ H11.9.30	第2四半期 H11.10.1～ H11.12.31	第3四半期 H12.1.1～ H12.3.31	第4四半期 H12.4.1～ H12.6.30	当期累計 H11.7.1～ H12.6.30
客室稼働率	-	-	-	34.1%	34.1%
客室単価	-	-	-	9,776円	9,776円
室料売上	-	-	-	2,678	2,678
室料外売上	-	-	-	35	35
売上合計	-	-	-	2,713	2,713
(償却前)費用合計	-	38	305	5,265	5,608
(償却前)営業損益	-	38	305	2,552	2,894

客室稼働率 ゴールデンウィーク後はオフシーズンのため、34.1%は順調なスタートといえます。
費用 開業準備のための費用が多く、通常の損益対応は来期以降となります。

那須店利用者構成
2000年4/25-6/30実績)



那須店認知経路
2000年4/25-6/30実績)



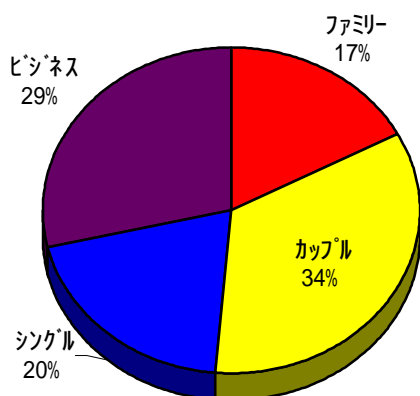
利用者構成 約2ヶ月のデータですが、「鬼怒川店」と比べ、ビジネス客の少ないのが目立ちます。
認知経路 再利用(「鬼怒川店」の利用者)およびホームページによる認知が目立ちます。
また、看板規制地域のため、案内看板を見てという利用がほとんどありません。

「秋田六郷店」の状況 (単位：千円) ……6月1日オープン

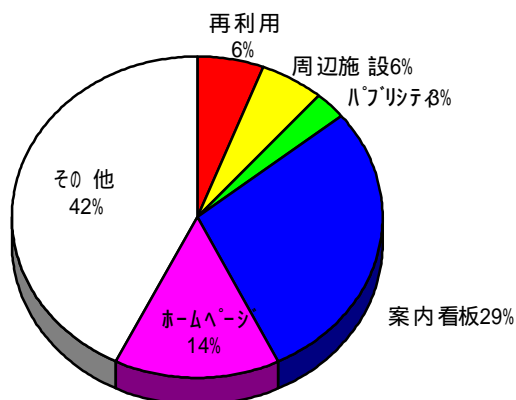
	第1四半期 H11.7.1～ H11.9.30	第2四半期 H11.10.1～ H11.12.31	第3四半期 H12.1.1～ H12.3.31	第4四半期 H12.4.1～ H12.6.30	当期累計 H11.7.1～ H12.6.30
客室稼働率	-	-	-	9.7%	9.7%
客室単価	-	-	-	4,860円	4,860円
室料売上	-	-	-	170	170
室料外売上	-	-	-	0	0
売上合計	-	-	-	170	170
(償却前)費用合計	-	-	303	5,126	5,429
(償却前)営業損益	-	-	303	4,956	5,259

客室稼働率 もっとも旅行者の少ない6月のみのデータですが、稼働率は10%を下回りました。
しかし、ビジネス客の再利用も出始めており、着実に上昇すると予想しております。
費用 開業準備のための費用が多く、通常の損益対応は来期以降となります。

秋田六郷店利用者構成
2000年6/1-30実績)



秋田六郷店認知経路
2000年6/1-30実績)



利用者構成 「鬼怒川店」と比べ、カップルやビジネス客の多いのが目立ちます。
 認知経路 国道沿いに大きな看板を設置しているため、案内看板を見ての利用が目立ちます。
 その他は、地元の方々およびその紹介による利用です。

(3) 財政状態

貸借対照表 (単位：千円)

	前 期 末 H11.6.30	第1四半期末 H11.9.30	第2四半期末 H11.12.31	第3四半期末 H12.3.31	当 期 末 H12.6.30
(資産部)					
流動資産					
現金預金	2,486	14,663	70,048	74,834	4,250
その他	219	219	164	139	9,424
流動資産合計	2,705	14,883	70,213	74,974	13,674
固定資産					
有形固定資産合計	116,671	114,811	142,760	174,731	288,080
無形固定資産合計	224	225	225	500	1,308
投資等	3,083	10,133	10,083	10,033	6,966
固定資産合計	119,979	125,169	153,068	185,265	296,355
繰延資産	-	-	7,418	7,309	6,456
資産合計	122,685	140,052	230,699	267,549	316,487
(負債部)					
流動負債	1,268	321	1,154	1,856	27,110
固定負債	17,400	35,400	35,400	80,215	115,023
負債合計	18,668	35,721	36,554	82,071	142,133
(資本部)					
資本金	150,000	150,000	249,000	249,000	249,000
剰余金					
当期末処分損益 (うち当期損益)	45,982 (18,884)	45,669 (314)	54,855 (9,186)	63,522 (8,666)	74,645 (28,663)
資本合計	104,017	104,331	194,145	185,477	174,354
負債資本合計	122,685	140,052	230,699	267,549	316,487
発行済株式数	3,000株	3,000株	4,980株	4,980株	4,980株
1株当たり純資産	34,673円	34,777円	38,985円	37,244円	35,010円

第4四半期における固定資産の増加は、「那須店」の建物の取得(建設費残額の支払い)、「秋田六郷店」の建物取得、および「鬼怒川店」の改築費(期をまたぐため建設仮勘定)の一部支払いによるものです。

(4) 財務諸表作成の基本となる事項

当期末を除く四半期財務諸表の作成の基礎としている会計処理の原則及び手続は、下記事項を除き、正規の決算において採用している基準と同一のものを適用しております。正規の決算において採用している重要な会計方針等は「会社内容説明書 第5 経理の状況 重要な会計方針」をご参照ください。

事業年度の財務諸表作成のために採用している会計処理の原則および手続と異なる会計処理の基準は次のとおりです。

固定資産の減価償却の方法

各四半期の減価償却費は年間発生見積額の1/4に該当する金額を計上しております。

繰延資産の処理方法

四半期末に保有する繰延資産の年間償却見積額の1/4に該当する金額を計上しております。

経過勘定項目

未収収益、未払費用等の経過勘定項目のうち、重要性の低い項目は、資産および負債に計上せず期間費用として処理しております。

借入金の表示

長期借入金のうち、1年以内返済予定額は期末決算では流動負債として表示しておりますが、本四半期報告書では当該振替を省略し、固定負債に含めて表示しております。

また、本決算速報の数値は速報値であるため確定した決算数値ではありませんので、確定決算値と数値が異なる可能性があります。

なお、当該四半期財務諸表については、公認会計士の監査証明を受けておりません。

(5) 会計方針の変更

該当事項はありません。

(6) 資金の状況

現預金の増減 (単位：千円)

	第1四半期 H11.7.1～ H11.9.30	第2四半期 H11.10.1～ H11.12.31	第3四半期 H12.1.1～ H12.3.31	第4四半期 H12.4.1～ H12.6.30
期初現金預金残高	2,486	14,664	70,048	74,834
期末現金預金残高	14,664	70,048	74,834	4,250
四半期の増減	+12,177	+55,385	+4,786	70,584

借入金の増減 (単位：千円)

	第1四半期 H11.7.1～ H11.9.30	第2四半期 H11.10.1～ H11.12.31	第3四半期 H12.1.1～ H12.3.31	第4四半期 H12.4.1～ H12.6.30
期初借入金残高	17,400	35,400	35,400	80,215
期末借入金残高	35,400	35,400	80,215	128,328
四半期の増減	+18,000	-	+44,815	+48,113

4月に「那須店」、6月に「秋田六郷店」を出店いたしました。出店の際の設備資金は、おもに借入金により調達いたしました。

チェーン店の出店計画の進捗状況

(1) 2号「那須店」について

予定どおり、4月25日にオープンいたしました。ゴールデンウィークはほぼ満室の状況となりました。その後オフシーズンに入りましたが、当期通算(4/25~6/30)の客室稼働率は34.1%となり、順調なスタートを切ることができました。なお、夏休みはすでに満室の日も多く、来期の想定値である55%を達成できるものと期待しております。



(2) 3号「秋田六郷店」について

予定どおり6月1日にオープンいたしました。オフシーズンのため、当期(6/1~30)の客室稼働率は10%以下となりましたが、ビジネス客を中心に再利用も出始めており、着実に稼働率が上がり、来期の想定値である40%を達成できると期待しております。集客力アップのため、町役場をはじめ地元有力者などへの挨拶回りや「在京六郷会」でのPR活動に力を入れております。

なお、土地建物とも当社所有の「所有直営方式」とする計画でしたが、土地のオーナーより短期譲渡税の負担が大きいため土地については賃貸借に変更したい旨の提案があり、検討の結果、地代が低額であること、土地購入資金を他に有効活用できることなどから、これを受け入れることとし、賃貸借契約を締結いたしました。



(3) 1号「鬼怒川店」の改築工事について

「秋田六郷店」の土地購入予定資金などを活用し、急遽夏休み前に改築工事を行うこととし、7/19に竣工いたしました。オープンから5年経過したことによる汚れや不具合箇所の補修、懸案であった遮音性能の向上に加え、客室を2室増やし、売上高の確実な上乗せとリピーターの増加を見込むことが可能となりました。



(4) 4号店以降の計画について

「旅籠屋」の知名度のアップにともない、ゼネコン各社からの土地活用の引き合いを多く受けるようになり、随時用地視察などの予備検討を行っております。千葉県の外房、富士五湖周辺、長野県、および関西地区にも有望な計画が進行しております。

ただし、これらの計画実現には、相応の資金調達が必要であり、今秋に予定している第2次公募増資の具体化およびベンチャーキャピタルとの協議を急いでおります。

今後の業績予想

当期の決算を踏まえ、8月中をめどに「事業計画書」の改訂作業を進めております。当面の資金調達と新規出店の見通しを明らかにし、基本方針である平成14年6月期の黒字化と平成16年の株式公開を実現したいと考えております。

以上